

伊東勉 (1875-1948) ドイツ文學者。明治四十一年六月五日岐阜縣生れ（一九〇八年）。昭和十一年（一九三六年）京都帝國大學文學部卒。高知高等學校教授を経て、名古屋商科大學教授。

譯書『レテラー作『射撃祭』』（昭和十二年一月二十日刊）、ルードヴィヒ作『コト難去つて又一難』』（昭和十四年十一月十四日刊）、ブレントナーノ作『ゴッテル物語』』（昭和十六年七月二十六日、改譯・五十二年六月十六日刊）、ハイネ著『ドイツ古典文學の本質』』（昭和二十六年十一月二十六日、改譯・四十八年一月十六日刊）、『ラインケ狐』』（昭和二十七年十一月五日刊）（等號れと岩波書店版「岩波文庫」。著書『動物敘事詩研究序説―ラインケ狐』を中心として』（昭和十九年三月二十一日、京都・山口書店）、『一八四八年ドイツ革命の研究―マルクスの青春時代の闘争』』（昭和二十二年五月一日、社會書房）

が  
あ  
ら  
う。

